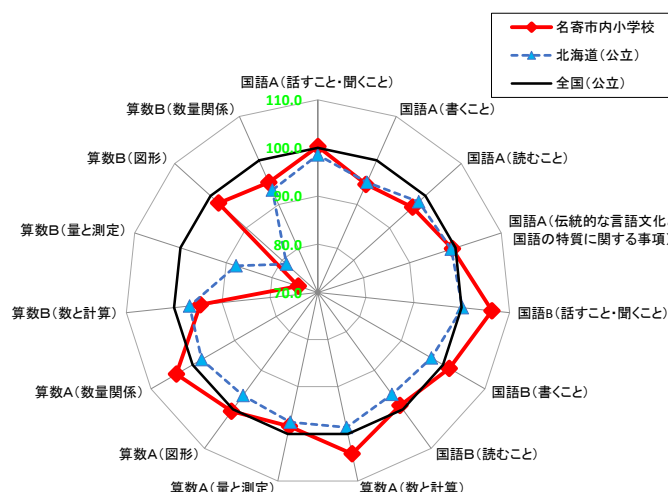


■名寄市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、児童数:186人)

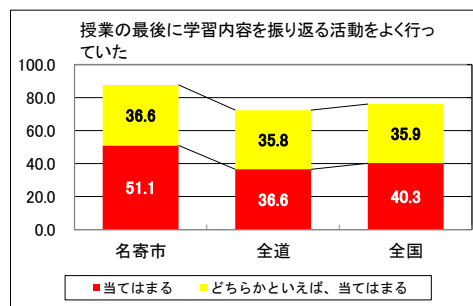
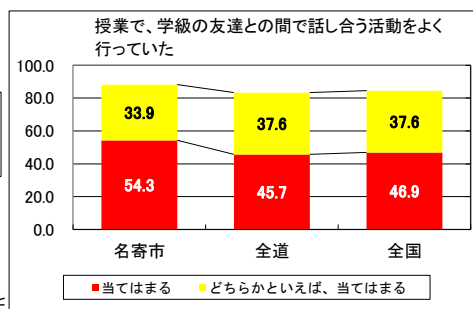
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

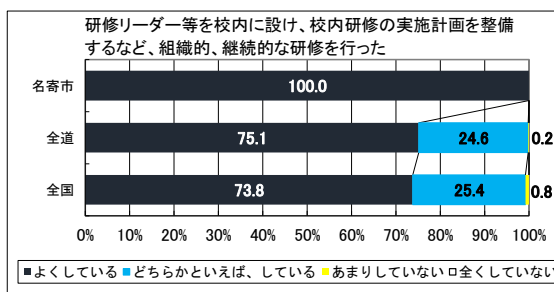
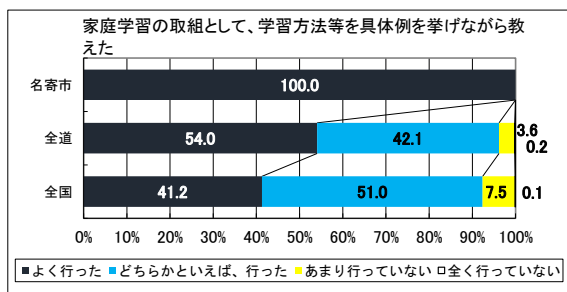
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	- 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、Bでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国を上回っている。 - 算数Aでは、「数と計算」「図形」「数量関係」で全国を上回り、Bでは、「図形」で全国に最も近づいている。	授業において、話し合う活動や学習内容を振り返る活動を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、「話すこと・聞くこと」など、国語の3領域で全国を上回ったと考えられる。
児童質問紙	「授業で、学級の友達とで話し合う活動をよく行っていた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。	家庭学習の学習方法について具体例を挙げながら教え、習慣化を図ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語及び算数の6領域で全国を上回ったと考えられる。
学校質問紙	- すべての学校が、「家庭学習の取組として、学習方法を具体例を挙げながら教えた」と回答している。 - すべての学校が、「研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行った」と回答している。	すべての学校が、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行ったことにより、教員の指導力の向上が図られ、国語及び算数の6領域で全国を上回ったと考えられる。

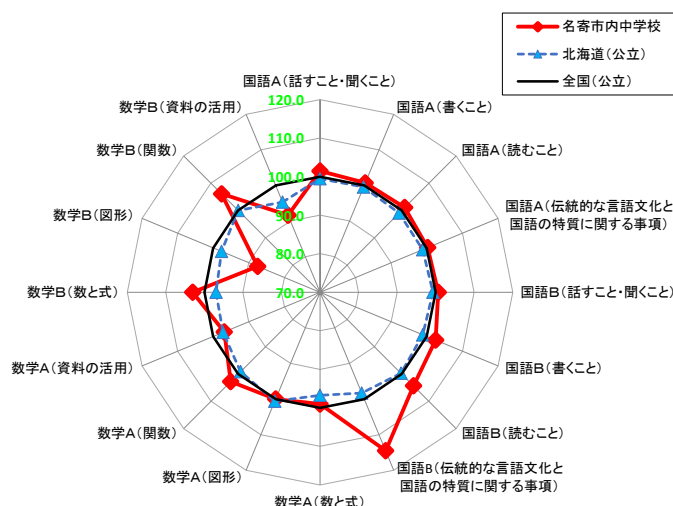
【名寄市の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための研修の充実
- ◎ 外国人英語指導助手の配置による国際理解教育の充実
- ◎ 学習規律の確立や各教科における言語活動の位置付けなどの確かな学力向上に資する取組の充実
- ◎ 名寄市教育改善プロジェクトによる、全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学力向上の取組の推進

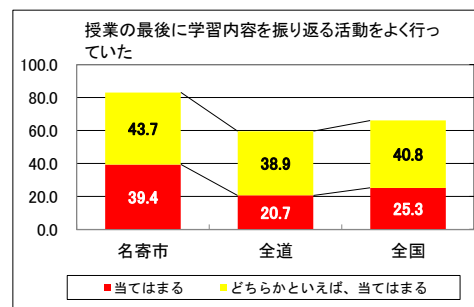
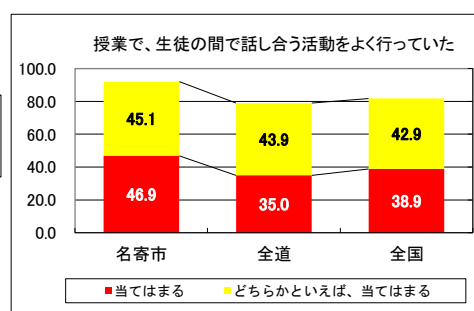
■名寄市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:215人)

【教科全体の状況】

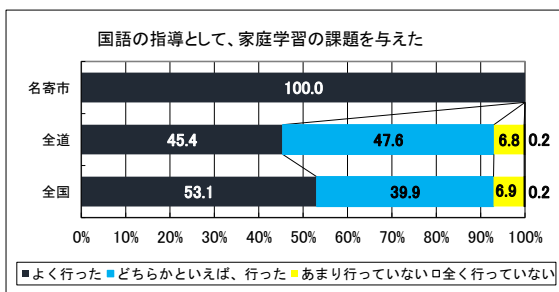
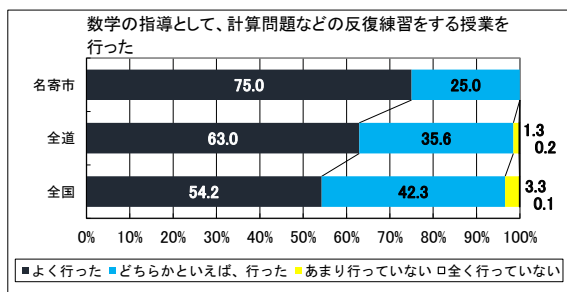
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語A・Bでは、すべての領域で全国を上回っている。 ○ 数学Aでは、「関数」、Bでは、「数と式」「関数」で全国を上回っている。	○ 授業において、話し合う活動や学習内容を振り返る活動を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語及び数学の12領域で全国を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「授業で、生徒の間に話し合う活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。	○ 数学の指導として、計算問題などの反復練習を行い、基礎的・基本的な知識や技能の習得に向けて取り組んだことにより、数学の4領域で全国を上回ったと考えられる。
学校質問紙	○ 「数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ すべての学校が、「国語の指導として、家庭学習の課題をよく与えた」と回答している。	○ 国語の指導として、家庭学習の課題を与えるなど、学習内容の定着に向けた取組を充実したことにより、国語のすべての領域で全国を上回ったと考えられる。

【名寄市の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るための研修の充実
- ◎ 外国人英語指導助手の配置による国際理解教育の充実
- ◎ 学習規律の確立や各教科における言語活動の位置付けなどの確かな学力向上に資する取組の充実
- ◎ 名寄市教育改善プロジェクトによる、全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学力向上の取組の推進